

ない とれる・られるを見分ける

図解と例題 | 文の中での動きを確かめよう

識別の三段階

- ①【】が一語全体か、一語の一部分か確かめる。
- ②直前・直後の語と、その語の活用を見る。
- ③だれの動作か、何を述べる文かを文脈から判断する。

ないの四つの用法

打ち消しの助動詞「話さ／ない」

動詞の未然形に付く。「話さぬ」とも言い換えられる。

形容詞「予備の紙が／ない」

物などが存在しないことを表す。「ある」と対になる。

補助形容詞「重く／ない」「静かでは／ない」

前の語が表す性質や状態を打ち消す。品詞は形容詞。

形容詞の一部分「危ない」「少ない」

全体で一語。「ない」だけを別の単語として分けない。

れる・られるの四つの意味

受け身 他から動作を受ける。「友人に支えられる」

可能 動作ができる。「一人でも着替えられる」

自発 自然に思いや感覚が生じる。「故郷がしのばれる」

尊敬 動作をする人を敬う。「館長が話される」

例題で確認

「古い写真を見ると、幼い日のことが自然と思い出される。」

→ 自発。だれかから動作を受けたのではなく、思いが自然に浮かぶ。

「先生」という主語だけで尊敬と決めず、先生が動作を受けている可能性も確かめよう。

だと そうだを見分ける

図解と例題 | 文の中での働きを確かめよう

だの三つの用法

断定の助動詞 「彼は／部長／だ」

名詞などに付き、そうだと言い切る。

形容動詞の活用語尾 「この／場所は／安全だ」

「安全だ」全体で一語。「安全な」「安全に」と活用する。

過去・完了の助動詞 「昨日／本を／読ん／だ」

助動詞「た」が「だ」の形になったもの。

そうだの二つの意味

伝聞 聞いたこと・読んだことを伝える。

「案内によると、明日は開館するそうだ。」

→「開館する」という終止形に付く。

様態 見た様子や状況から判断する。

「空が暗く、今にも雨が降りそうだ。」

→「降り」という連用形に付く。

ようだの意味も文脈で

「雲が綿のようだ」→ たとえ（比況）。

「ぬれた傘がある。外は雨のようだ」→ 推定。

「ようだ」全体が助動詞。最後の「だ」だけを独立した断定の助動詞として切り離さない。

活用語尾か 助詞か

「丁寧に書く」の「に」は、「丁寧だ」の活用語尾。

「机に置く」の「に」は、置く場所を示す格助詞。

「元気な声」の「な」は形容動詞の活用語尾。「走るな」の「な」は禁止を表す終助詞。

解くときの約束

問題で「用法」を四つから選ぶときは、補助形容詞や形容詞の一部も区別する。「品詞」を問われたとき、補助形容詞の品詞は形容詞。

記述では、判断の根拠になる前後の語や文脈も示そう。